

Dħäl yè äni? 山は何と言っているか？



2025年12月22日(月)
13:00 - 16:00
W409 入場無料

Dħäl yè äni? 山は何と言っているか?



©Rio Hosoguchi

講師

Isaiah Gilson/ダッハラー (Duthala: クルアニ族の名前) はクルアニ族、ワタリガラスのクラウン クルアニ族や他の部族の優れた師やエルダーから文化、大地、コミュニティーとの繋がりを深く学ぶ機会に恵まれる。人生の多くの時間を大地（「ブッシュ」ともいう）で過ごし、地に足をつけ家族と共に狩猟をしながら生活する中で、すべての生き物に対する尊敬、謙虚さ、そして気づきを学び続けている。自分たちの文化にまつわる物語や教え、そして先住民族に起きているリアルなことを歌やダンス、映像制作やストーリーテラーの活動を通じて伝えている。日本への今回の旅は、自身が受け継いできた知識を共有したいという願いから生まれています。人間同士の理解を深め、視点を交換することを楽しみにしています。

ホソグチリオ / Rio Hosoguchi

アーティスト

カナダの森でクルアニ族のパートナーとベアドックと共に暮らし、先住民の自然観、文化、歴史について日々学び、プロジェクトやアート活動を通じて発信している。

「山は何と言っているか？」
と聞かれたら、あなたはどう答えますか？

この言語は、カナダのユーコン準州の先住民族の1つである Lhù'aàn Mân Ku Dań - クルオンマンダン族 (英語: クルアニ族 または クルアニレイクの人々) によって話される、Dän K'e - ダン カイ (英語: サザン・タッチョーネ) 語です。

今でも自然が豊かに残る大地に住み、大地との関係を維持しながら、独自の文化を生きている人もいます。こうした生活を送る人々は、まるで本を読むかのように、自然の中のサインを読み取ることができます。この言葉は彼らが自然の様々なサインを読み取って生きているからこそ交わされる会話表現なのです。

口承文化であるクルアニ族は、現代においても様々な形で自分たちの生活様式や生き方に関する知識を伝え続けています。今もなお実践されている伝統的な一つの方法として、エルダー（長老）の家を訪ね、お茶やお菓子と一緒に楽しみながら、彼らの話に耳を傾け知恵を学んでいきます。

先住民寄宿学校（同化政策）の歴史による深い傷跡が今もなお残っているにもかかわらず、彼らの知識は生き残り、次の世代に伝え続けています。彼らが受け継いできた知識と文化を共有することは、現代人が忘れかけている自然との関わり方を再構築する糸口となると信じています。

ユーコンから持参した薬草茶とバノック（ユーコン伝統の揚げパン）を用意しておりますのでエルダーの家にお茶を飲みに尋ねるかのような感覚で、ぜひイベントにご参加ください。